

令和 元年 6月 10日現在

機関番号：12301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K15826

研究課題名（和文）がんサバイバーが治療と社会的役割を調和する多職種支援統合モデルの開発

研究課題名（英文）Development of multi-professional support integrated model in which cancer survivor harmonizes treatment and social role

研究代表者

神田 清子（KANDA, KIYOKO）

群馬大学・大学院保健学研究科・教授

研究者番号：40134291

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：がんサバイバーは、就労、家事役割など社会役割遂行に危機感を抱いている。看護体制はいまだ入院支援が中心であり、外来を含む支援の確立が急務である。本研究の目的は、社会的役割の調和を図る多職種支援モデルを提案し、その有効性を検証することである。3つの研究により支援モデルを導いた。1. 看護管理者とエキスパートナースを対象に外来看護支援の役割と課題について質的記述的に分析した。2. 研究成果と文献検討により、適切な支援モデルを検討した。サバイバーの社会役割と治療の調和に向けた看護プロセスを網羅したアルゴリズムの原案を開発し、モデルとした。3. モデル評価のため看護師が使用し、有効性が明らかにされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

慢性的な人的不足状態にある外来において、治療期にあるがんサバイバーの社会的役割の調和（調整）を図る看護支援モデルが提示できる。学術的意義は、アルゴリズムによる支援モデルを開発したことにより、がんサバイバーに対する看護師の社会的役割調整のための支援役割を言語化できた。さらに、実践的にも医師、MSW、作業療法士など多職種につなげる必要のある状況が明確になり、連携がとりやすくその基準を明確にできたことである。このことは、がんサバイバーの社会的役割遂行に伴う危機を避けることにつながる。

研究成果の概要（英文）：Cancer survivors have a sense of crisis in social role execution, such as working and household duties. The nursing system is still centered on hospitalization support, and the establishment of support including outpatients is urgently needed. The purpose of this research is to propose a multi-sector type support model that aims to harmonize social roles and to verify its effectiveness. The support model was derived by three studies. 1. The role and issues of outpatient nursing support were analyzed qualitatively and descriptively for nursing managers and expert partners. 2. Based on research results and literature review, appropriate support models were considered. We developed and modeled an algorithm draft covering the nursing process for harmonizing the social role of the survivor and the treatment. 3. The nurse used it for model evaluation, and the effectiveness was clarified.

研究分野：看護学

キーワード：外来がん治療 抗がん薬 放射線 社会的役割 がんサバイバー 外来看護支援モデル アルゴリズムの開発

1. 研究開始当初の背景

がん化学療法は外来が主流となり地域社会の中で治療生活を送るがんサバイバーが急増している。この背景は **2003** 年外来での化学療法加算が認められたこと 有効な制吐剤が開発され、悪心・嘔吐および感染などの支持療法が確立されたこと 再発・進行がんに対する二次・三次治療が開発され治療期間が延長していること 社会生活を送ることができ対象者の **QOL** の向上が図られることなどがある。

一方で治療継続の社会的困難性として、がん治療と経済的問題：分子標的薬など新規に開発される薬剤の経済的負担が高く(平均 **152** 万/年)経済的理由で **11.8%** が中断等している(濃沼 **2010** 年) 治療に必要な経済情報の不足：**47%** が治療費の正確な説明の必要性へのニーズがある(濃沼、竹中 **2010** 年) 就労継続の困難性：がん罹患により有職者の **29%** が無職、**41%** が収入減/無収入 (**NPO** がん患者団体支援機構 **2009**, 厚生労働科 山口班 **2008**) になる。その要因には「前のように働けないだろう」という知識不足による判断と医療者のアドバイス不足(高橋都 **2011** 年)がある(がんや就労の中断による国の損失が最大 **1.8** 兆億円になる推定)

症状マネジメントの困難性が役割に影響することが明らかにされている。

また我々は(菊地・神田ほか **2013** 年)(中澤・神田ほか **2014** 年)社会的問題は、自己概念や存在意義の低下などスピリチュアルペインに進展し複雑で解決が困難になることを明らかにしている。しかしこれまでの研究において社会的役割や調整に焦点をあて介入しているのは皆無である。

がん医療をめぐる状況が変化する中、外来で直接化学療法に携わる看護師が全人的にアセスメントし、問題状況への早期の調整と介入をする必要がある。まさに、地域社会の中で治療生活を送るがんサバイバーの **QOL** を高める重要な課題である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、社会的役割の調和を図る多職種支援モデルを提案し、その有効性を検証することである。具体的な目的は **3** 点である。**1)** 外来看護の役割と課題の明確化のために、看護管理者およびエキスパートナース(以下エキスパート **NS**) が認識する外来看護の役割と課題を明らかにする。**2)** 社会役割の調和を図る支援モデルを検討するため、文献検討から外来化学療法中あるいは放射線療法中のサバイバーの、社会役割と治療の調和に向けた看護プロセスを網羅したアルゴリズムの原案を開発すること。**3)** がん治療に携わる外来看護師によるがんサバイバーの社会役割と治療の調和に向けた看護アルゴリズム支援を評価し、アルゴリズム導入に向けた示唆を得ることである。

3. 研究の方法

1) 用語の操作的定義

看護師が行う「調整」：がんサバイバーが、治療を受けながら社会生活における役割を果たすことができるよう、看護師が環境を整えること。なお、環境には内的環境(症状マネジメント、治療継続の動機付け、気持ちをコントロールすること)、外的環境(人間関係、役割、経済など生活に影響を与えること)を含む。

2) 目的別の研究方法

(1) 外来看護の役割と課題の明確化

対象者：外来化学療法に携わる看護管理者(責任者)およびエキスパート **NS**、方法：管理者・エキスパート **NS** 毎にグループフォーカスグループインタビューの実施、主なインタビュー内容は 治療を受けるがんサバイバーにとって社会生活(役割)はどのような意味を持っていると考えているか 看護師は、外来で治療を受けているがんサバイバーが仕事や家事、地域社会の役割を保つために、支援の必要な方をどのようにとらえて支援をしているか 貴院の看護師は、病院内や地域社会の資源の活用、調整役割に関する支援をどのように行っているか その内容についてである。分析：許可を得て録音し逐語録を作成し、内容分析の手法を用いた質的記述的に分析した。研究目的に対応した内容に関して、外来看護の役割と課題を示している部分を抜き出し、その意味内容に従い、一文を単位としてコードとした。意味内容の類似性に従い、サブカテゴリ - 、カテゴリ - と抽象化を進めた。信用性の確保のため、共同研究者で検討・討議を繰り返し行った

(2) 社会役割の調和を図る支援モデルを検討

文献検討：**2006** 年から **2017** 年に学術雑誌に掲載された外来で勤務する看護師(外来看護師)が実施している、患者の社会的役割を視野に入れた調整に関する研究の内容を分析し、外来看護師支援モデルの基礎資料とした。医学中央雑誌 **Web** 版を使用し、「外来看護」and “がん” and “調整”、“外来看護”and “社会的役割”and “調整”のキーワードで検索した。

がんサバイバーの社会役割と治療の調和に向けた看護アルゴリズム原案の開発

アルゴリズム初回原案の基盤の構築：基礎研究として「化学療法を受けるがんサバイバーが治療と社会役割を調和する看護支援に関する看護管理者の認識」¹⁾ や、「がんサバイバーが社会役割と治療の調和をはかる看護支援」²⁾ について明らかにしてきた。また、「外来看護師が実施している調整に関する研究の内容分析」³⁾ を行い、社会役割と治療の調和に向けた看護に関して質的な結果を得てきた。これらの基礎研究の結果を集約し、外来看護師の効率的な看護プロセスの構築として、サバイバーの心身と社会役割に対するアセスメントの体系化、治療

の影響による心身と社会役割の問題に対する具体的な対応を軸にした。また、他職種との迅速な協力体制の構築として、他職種への情報提供と連携ルートの作成、多職種の協働による副作用症状マネジメントの強化と社会問題への対応を基盤とした。

アルゴリズム初回原案の作成：看護アルゴリズムの作成手順として標準化されている既存資料はないため、渡邊ら（渡邊千登世ら．看護研究 2005; 38: 13-21.14）のケアプログラムなどの作成手順を参考に独自に作成した。特に作成手順の構成において、基礎研究などフィードバックしながら妥当性や実用性が保たれるよう配慮した。そして、アルゴリズム初回原案は以下の第 1～5 段階を経て作成した。第 1 段階：社会役割の支援に必要な記載項目の検討，第 2 段階：**Process Flow Chart (PFC)** 形式での作成，第 3 段階：アセスメントの順序性を考慮し対応と連携の強化，第 4 段階：事例を用いた検討，第 5 段階：アルゴリズムを初回原案として 4 つの時期別に作成した。

がんサバイバーの社会役割と治療の調和に向けた看護アルゴリズム支援の評価

本研究の研究デザインは、がんサバイバーを支援する外来看護師に看護アルゴリズムを使用してもらい、その評価を行うという対照群を置かない介入研究である。対象者はがんサバイバーに接する機会が多い A 県内の都道府県がん診療連携拠点病院と同等の病院 3 施設の外来化学療法室、外来放射線科に勤務する看護師 30 名程度を対象とした。各施設の研究対象者に、看護アルゴリズム支援を約 4 か月間実施してもらった後、3～7 名を 1 グループとしたフォーカスグループインタビューを実施した。調査内容はアルゴリズム使用後のサバイバーに対する支援への思い、考え、行動の変化や効果についての自由な語りを促した。

分析方法：**Berelson.B** の内容分析

3) **倫理的配慮：**研究施設の倫理審査の承認を得た。研究の趣旨および目的、参加は任意であること、データは匿名化され、個人情報を守られることを書面と口頭で説明し同意を得た。

4. 研究成果

ここでは目的別の研究成果を以下に示す

(1) 外来看護の役割と課題の明確化

看護管理者：対象者は A 県内のがん拠点病院に勤務する看護管理者または経験者 10 名であった。化学療法を受けるがんサバイバーが治療と社会役割を調和する看護支援に関する看護管理者の認識は <15 サブカテゴリー>、5 カテゴリー が抽出された。看護管理者は、外来看護師がサバイバーの生活を維持するための支援として、<生活者の視点をもって情報収集>し、<これから起こる副作用とその対策を説明>することで精神的苦痛を和らげるとともに、<職場への情報提供の仕方を説明>し、<点滴の時間やスケジュールの調整>することで社会役割を遂行できるよう援助していると認識していた。さらに、<他職種との連携>を図り<社会制度を上手に活用>する、<サバイバー同士の体験の共有を支援>するなど看護師以外の資源の活用 という橋渡しの役割も担っていると理解していた。また、課題として、外来での<限られた人員の活用>と同時に<認定看護師の効果的な活動>によって<知識をもった外来看護師の育成>をするといった外来看護師の教育と効率的な活用が急務であることが示された。さらに化学療法センターの<受け持ち制>や<社会役割の支援に向けた待ち時間の有効活用>、<効率的な点滴のマニュアル化>など化学療法センターの看護手順の見直しが必要であることや、<院内他職種との連携>を円滑にし<医師との役割分担>を進めるなど他職種との協力体制をさらに強化することを課題として認識していた。

エキスパートナース：対象者は A 県内 5 病院のがん化学療法室に勤務し、がん化学療法看護認定看護師・がん看護専門看護師および経験年数 8 年以上の者 13 名である。平均年齢 39.4 ± 4.43 歳であった。がんサバイバーの社会役割と外来治療の調和を促進するエキスパート看護師の支援内容は 109 コード、21 サブカテゴリーから 6 カテゴリー が形成された。看護師はサバイバーの生活者としての社会生活の意味づけをし、必要な把握した生活関連情報を多職種に提供するとともに多職種協働での副作用症状マネジメントを遂行する。また看護師としてサバイバーの特性を見極めた生活支援を展開しながら他部門と調整し多職種で経済や困難な状況に対応している。さらに病院組織として仕事・生活を重視し治療継続できるシステムの整備を進めサバイバーが社会役割と治療の調和が図れる支援をしていた。(図 1 参照)



図 1
がんサバイバーの社会役割と外来治療の調和を促進するエキスパート看護師の支援

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19 (共通)

以上より、看護管理者は、外来看護師がサバイバーの社会役割を考慮し治療と両立できるよう支援していると認識していた。支援を充実させるためには人員確保だけではなく、看護支援システムの構築や専門性の高い看護師の有効活用も課題として認識していることがわかった。そして、他職種との連携や協働を推進し、支援体制を強化する重要性が示唆された。また看護師は社会生活の重要性を認識し、サバイバーの普段の生活と社会役割が果たせるよう専門性を生かし、多職種協働支援やシステム整備を図っていることが明らかにされた。(図1 参照)

(2) 社会役割の調和を図る支援モデル

文献検討: 研究目的に合致する内容の 24 件の原著論文を分析の対象とし、内容分析の手法を参考に質的帰納的に分析した。分析の結果、60 コードが抽出され、それを 19 サブカテゴリに分類した。さらに抽象化をすすめカテゴリーとして、調整の基盤となる専門的アセスメント、患者の治療・生活環境を整える看護援助、多職種間のケアネットワークの潤滑剤、患者支援に向けた外的環境の構築、患者・家族のヘルスリテラシーを高める情報提供の 5 カテゴリーが形成された。外来看護師は、短時間で患者の身体・精神・生活状況を複眼的にアセスメントし、患者の社会生活に合った支援を行うことを求められていることが明らかにされた。これらの要素が支援モデルに必要であると考えられる。

がんサバイバーの社会役割と治療の調和に向けた看護アルゴリズム原案の開発アルゴリズム
初回原案の評価：同意が得られた 7 名の看護師あるいは、がん看護専門看護師とした。調査方法は 4 つの時期別のアルゴリズム初回原案に対する評価について、郵送にて回答を依頼した。結果は、対象者のうち 4 名が「可能である」と回答しアセスメントの内容が明確であり看護の標準化につながるという意見があった。一方、「不可能である」場合の根拠については、項目が多すぎるという記載があった。これらの意見を参考に、また、基礎研究の結果との対応も確認し以下の修正を行った。結論として、サバイバーの状態をアセスメントし社会役割の継続に向けた具体的支援を含め、初回治療前/初回治療当日のアルゴリズム、診察日のアルゴリズム、治療変更時のアルゴリズム、症状悪化時のアルゴリズムの原案を開発した。これはサバイバーを総合的にアセスメントし具体的な対応を行い、他職種との連携により迅速に支援できる内容が含まれた。(図2 参照)

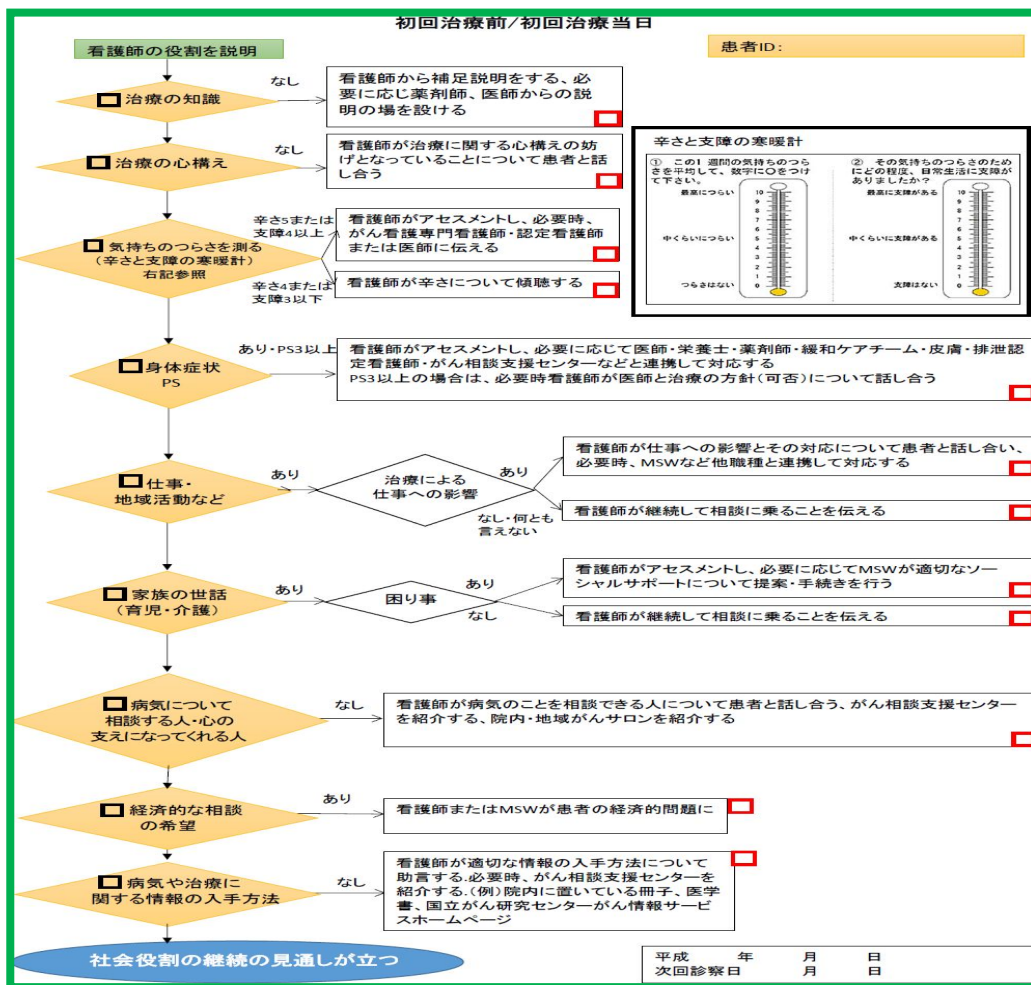


図2 がんサバイバーの社会役割と治療の調和を促進する看護アルゴリズム (初回治療前)

3) がんサバイバーの社会役割と治療の調和に向けた看護アルゴリズム支援の評価

研究参加の同意が得られた対象者は 28 名で、外来化学療法室に勤務している者が 22 名、外来放射線科に勤務している者が 6 名であった。

がんサバイバーの社会役割と治療の調和に向けた看護アルゴリズム支援の評価の内容分析の結果、51 記録単位から 49 コードを抽出した。それらは最終的に 10 の<サブカテゴリー>、3 カテゴリー に集約された。社会で生活するサバイバーを統合的にみることが可能になるのカテゴリーは、<サバイバーの社会的背景を含めたきめこまやかな情報収集ができるようになる>、<今までサバイバーに聞きにくいと感じていた内容の情報収集ができるようになる>など 4 つのサブカテゴリーで構成された。<サバイバーの社会的背景を含めたきめこまやかな情報収集ができるようになる>は、サバイバーの家族背景、職場環境やキーパーソンについて、広く情報収集ができるようになったことが表されている。<今までサバイバーに聞きにくいと感じていた内容の情報収集ができるようになる>などから構成されスクリーニングのツールとして使用できたことが示されている。

多職種をつなぎ支援の方向性を共有化できるのカテゴリーは、<アルゴリズムによって看護スタッフ間で支援の方向性の共有ができるようになる>と<多職種につなぐための根拠や道筋が明確になり、連携がとりやすくなる>の 2 つのサブカテゴリーから構成された。<アルゴリズムによって看護スタッフ間で支援の方向性の共有ができるようになる>は、「アルゴリズムを使用することで、支援が必要なサバイバーに対して看護師としてどう関わっていくかをスタッフと話すきっかけができる」というコードのように、看護スタッフ間の支援の方向性を見出す一助となった。<多職種につなぐための根拠や道筋が明確になり、連携がとりやすくなる>は、アルゴリズムを使用することで多職種との円滑な連携が可能になったことが示された。また連携をとる際に、サバイバーの状況を説明するための資料としても活用したという声もあった。

外来看護師としての自己効力感が高まるのカテゴリーは<アルゴリズムが自分の看護支援の裏付けにつながる>、<サバイバーが社会役割を継続できるような支援や情報収集が重要であるという実感が得られる>、<サバイバーの背景を把握して支援したことで、サバイバーとの関係性がさらに良好になる>、<社会的役割を支持できるという外来看護師としての自信につながる>の 4 つのサブカテゴリーから構成された。<アルゴリズムが自分の看護支援の裏付けにつながる>は、「アルゴリズムに自分の看護実践と同じことが書いてあり、今までの看護でよかったと再認識できた」という、アルゴリズムが自身の看護の根拠や道筋になったことが示された。<サバイバーが社会役割を継続できるような支援や情報収集が重要であるという実感が得られる>は、「アルゴリズムに文章化されていることで、サバイバーの社会役割についての個々の情報が、すべてつながって全体的な支援になるのだと感ずることができる」等、看護アルゴリズム支援を通じ、外来看護師の意識変化が含まれた。<サバイバーの背景を把握して支援したことで、サバイバーとの関係性がさらに良好になる>は、「アルゴリズムに沿った関わりをすることで、サバイバーと深く話ができるという発見がある」のコードのように、アルゴリズム支援によって結果的にサバイバーとの関係構築につながることを示された。<社会的役割を支持できるという外来看護師としての自信につながる>は、「これまで、サバイバーにがんサロンなどの相談の場を提供することが難しいと感じていたが、アルゴリズムに沿って情報提供できたので看護師として役に立てるという発見があった」等、外来看護師としての役割の再認識を示している。また、「治療で生活が脅かされてしまうのは辛いことだろうから、看護師として支援をさせてもらいたいと伝えるようになった」といった行動の変化が起こったことも含まれた。

アルゴリズムを導入することで、制限の多い環境の中でも外来看護師がサバイバーを統合的にアセスメントし、多職種を巻き込みながら看護介入することで自己効力感を高めることができることが示唆された。

3 段階の研究を経て、がんサバイバーが社会的役割の調和を図るため、多職種への調整を含む看護支援モデルとしてアルゴリズムとして提示し、その有効性を検証することができた。慢性的な人的不足状態にある外来において、治療期にあるがんサバイバーの社会的役割の調和(調整)を図る看護支援モデルが提示できたこと。アルゴリズムによる支援モデルを開発したことにより、がんサバイバーに対する看護師の社会的役割調整のための支援役割を言語化できたことの意義は高い。今後様々な施設で導入していくには、アレンジ可能な様式を検討する。加えてサバイバーや他職種からの反応を評価し、フィードバックすることでアルゴリズムを改良し実用化していくことが課題である。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 3 件)

1. 菊地 沙織, 京田 亜由美, 藤本 桂子, 清水 裕子, 吉田 久美子, 神田 清子. がんサバイバーの社会役割と治療の調和に向けた看護アルゴリズム支援の評価. **The Kitakanto Medical Journal** 2019; 査読有 69: 111-119.
2. 吉田 久美子, 神田 清子, 藤本 桂子, 菊地沙織, 清水 裕子, 京田 亜由美. がんサバイバーの社会役割と治療の調和に向けた看護アルゴリズム原案の開発. **The Kitakanto Medical Journal** 2018; 査読有 68: 241-253.

3. 菊地 沙織, 神田 清子, 京田 亜由美, 藤本 桂子, 清水 裕子, 吉田 久美子 . 外来看護師が実施している調整に関する研究の内容分析 - 患者の社会的役割遂行の実現に向けて - . 群馬保健学研究 2017 ; 38 査読有 : 127~135 .

[学会発表](計 4 件)

1. 菊地 沙織, 京田 亜由美, 藤本 桂子, 清水 裕子, 吉田 久美子, 神田 清子 . がんサバイバーの社会役割と治療の調和に向けた看護アルゴリズム支援の効果 . 日本がん看護学会誌 33Suppl. P244 . 2019 . 福岡
2. 吉田 久美子, 藤本 桂子, 菊地 沙織, 清水 裕子, 京田 亜由美, 神田 清子 . 外来治療を受けるがんサバイバーの治療と社会役割を調和する看護アルゴリズムの開発 . 日本看護科学学会学術集会講演集 37 回 Page [PB-07-3] 2017 仙台
3. 神田 清子, 藤本 桂子, 清水 裕子, 菊地 沙織, 吉田 久美子 . がんサバイバーの社会役割と外来治療の調和を促進するエキスパート看護師の支援に関する分析 . 日本がん看護学会誌 31Suppl. P244 . 2017. 高知
4. 清水 裕子, 藤本 桂子, 菊地 沙織, 吉田 久美子, 神田 清子 . 化学療法を受けるがんサバイバーが治療と社会役割を調和する看護支援に関する看護管理者の認識 . 日本看護科学学会学術集会講演集 36 回 P392 . 2016. 東京

[図書](計 1 件)

神田清子, 二渡玉江 (編著) , メディカルフレンド社 : 看護実践のための根拠がわかる成人看護技術がん・ターミナル : 2015 : P306

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名 : 清水 裕子

ローマ字氏名 : **SHIMIZU HIROKO**

所属研究機関名 : 群馬県立県民健康科学大学

部局名 : 看護学部

職名 : 准教授

研究者番号 : **70310240**

研究分担者氏名 : 吉田 久美子

ローマ字氏名 : **YOSHIDA KUMIKO**

所属研究機関名 : 高崎健康福祉大学

部局名 : 保健医療学部

職名 : 教授

研究者番号 : **70320653**

研究分担者氏名 : 藤本 桂子

ローマ字氏名 : **FUJIMOTO KEIKO**

所属研究機関名 : 高崎健康福祉大学

部局名 : 保健医療学部

職名 : 講師

研究者番号 : 80709238

研究分担者氏名 : 菊地 沙織

ローマ字氏名 : KIKUCHI SAORI

所属研究機関名 : 群馬大学

群馬大学・大学院保健学研究科

職名 : 助教

研究者番号 : 10758254

研究分担者氏名 : 京田 亜由美

ローマ字氏名 : KYOTA AYUMI

所属研究機関名 : 群馬大学

群馬大学・大学院保健学研究科

職名 : 助教

研究者番号 : 00803751

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。